



074393-000-0

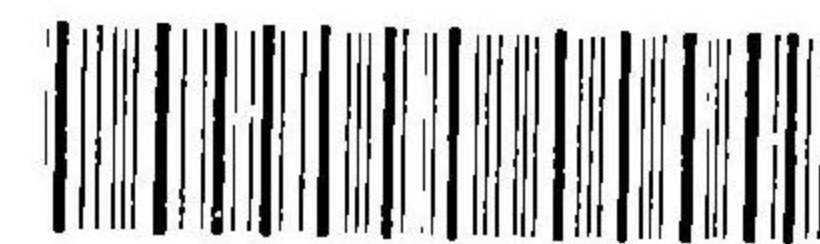
特 67-719

日清阿房馱羅經

榎田 庄五郎 / 著

M27

CEI-1645



阿房駄羅經

佛説阿房駄羅經、抑々段々支那と日本と、戦争の

有立、聞らて、クン子イ、朝鮮内乱、閔族をんぞ

が支那に公使と、密に謀て兵士を呼んだが、日

本の服立、天津條約違反の事から、騒動が始ま

り、大鳥公使が兵士を率ゐて、朝鮮談判、獨立す

るのが、政事此改革、二ツに一ツの手結の催促、



返答に困て、王妃が泣出す、閔族逃出す、夫に續いて、豊島海戦、日本の軍艦、獲たり賢一ツも逃すな、瀛船ハブク、チャンクドブ、操江ハ捕獲だ、廣乙は駈出し、淺瀬に乗揚げ、引にや引かれぬ、行にも行かれぬ、進退極る、船体破はれる、全體怖がる、二ツチもサツチも動きが出来ない、腰が抜けたか、艦長ハゲラツク、艦體ブラツク、海ではやられる、牙山ハ戦争じや、

支那の大將葉と云ふ奴、逃るが上手で、朝鮮藝妓ハ上着を冠て、サツサト逃出す、大きに御苦勞、ヨウコン逃げたよ、逃ると負るが、名譽の國だか褒美貰て安樂世界だ、コンナ事なら負るが專一、平壤なんぞは三日も前へから逃る覺悟は致したけれども、寶貴の野郎が逃るはイヤだと、政府の意見を聞かない計りに、勝氣になつたが、了簡違ひだ、黄海々戦軍艦イカクで膽

玉コツクテ、支那の客將、ハンチツケンだが、片腕モガレル、丁の野奴は大砲の怒鳴りで、聾になるやら、白旗立るの、逃るが善いだの、内部に騒動、日本の軍艦樺山大將は、ニコく笑て、コンナ海戦、朝飯前だよ、日本の技倆を示すにや及ばぬ、併し愉快だ、郵船會社比清水と云ふ人、海戦最中、寫眞を撮るやら平氣なもんだよ、開けたもんだよ、支那の軍艦種々比藝道、ナカク

上手で、水中にモクツテ鮑を取るのか、蛤取るのか、鯨の眞似して、鹽を吹たり、水比中でも、ぼつぼつ燃わたり、威海御苦勞だ、大きに御世話だ、海には樺山陸には山縣、大山大將軍勢引連れ、旅順口占領し、支那の運命早いか、晚いか、負るにや違ひない、狸親父が了簡違ひだ、日本小國丸めて吞ふと、飛んでもない事思ふて失策り、國王服立、羽織は脱がされ、帽子は取れる、成

程日本、國がコツクテ、膽玉イカクテ、人間利巧
 で、戦争ガ上手だ、今度戦争は文野の戦ひ、日本
 の軍勢は、支那の内地で演習の積りで、ドシク
 やらかす、北京の天子も、ベソク泣ても氣の
 毒なからも、日本へ寄留だ、先は我

天皇陛下萬歲 陸軍萬歲 海軍萬歲

帝國萬歲 支那の政府の運命も近きにあり、
 南無阿彌陀佛

明治廿七年十二月十二日出版
 明治廿七年十二月十六日發行

（定價金三錢）

静岡縣平民

著作兼發行 榎田庄五郎

静岡縣榛原郡川崎町静波廿二番地住

中華民國二十二年一月二十日

中華民國二十二年一月二十日

中華民國二十二年一月二十日

(民國二十二年一月二十日)

中華民國二十二年一月二十日